

色と柄 想いをのせて

もともとは織物を生業とし、郡内織物の生産の一翼を担っていました。その影響なのか、寝具においても美しい柄を作り出す事にこだわりを持っています。

長い年月、色や柄へのこだわりを持ち続けたからこそ生み出されたデザインがMasuyamaの寝具にはあります。

色と向き合う時には、朝・昼・晩と時間を変え、その時に見える僅かな色の違いを考慮し、色性や濃度の調整を重ねます。

柄の場合、五十年前の圖案から、現代の圖案まで、千枚ほどの中から三十枚ほどを選び抜き、社内ですらに検討を重ねます。その中でも色の染めを経て生地になるのはわずか三柄ほどです。

生地が羽毛布団の形になるまで、裁断や縫製の工程で触れ合い、最後の一枚を使い切るその日まで、長い年月を共にするオリジナル染柄は、家族同然の存在なのです。一枚一枚想いをのせて送り出すにはいられません。



杏色

杏の優しさと大人らしい色
市松柄から派生した広がりのある柄

藍染色

深い藍から淡い藍の色の組み合わせ
夏の終わりを告げる、お祭りの浴衣を連想



撫子色

薄めの桃色
自由な流れを表現した柄
大和なでしこが語源のオリジナル染柄

藍白色

薄い藍色
自由な流れを表現した柄
藍が徐々に白めく様を表現



琥珀色

淡く上品な琥珀色
柄にはさりげない和紋のようなデザイン
上質な素材が生み出す光沢

柳染色

淡い白藍にほのかに見え隠れする藤紫色
静けさと上品さを重んじる、日本の美学を表現

